

City Life NEWS

全国で注目される施策や課題は、地域で暮らす私たちにどう影響するのか?身近に起きた出来事やトレンドなど、幅広い分野のニュースを紹介していきます。ネットでもさまざまなニュースを紹介しています。



シティライフNEWS で検索

うめきた2期区域開発 2024年先行まちびらきに向けて進行中

JR大阪駅北側の再開発区域、通称「うめきた」。2002年から始まった「うめきた」プロジェクトが最終局面を迎えている。残る2期区域のうち、2024年には一部区域の先行まちびらき、2027年には基盤整備完了を目指す。

「うめきた」は先行開発区域と2期区域に分けられる。全24ヘクタールのうち、先行開発区域の7ヘクタールがグランフロント大阪として2013年にオープン。2期区域については2015年3月に「うめきたまちづくりの方針」が決定し、まちづくりの目標として「『みどり』と『イノベーション』の融合拠点」が掲げられた。みどりや健康・医療など新産業の創出をテーマに民間の開発事業者が募集され、2018年7月に三菱地所を中心とするグループに決定した。



うめきた2期区域の完成イメージ(事業者提案より)

南北に延びる区域の中心部4.5ヘクタールは、木や芝生、池などを有し、まちと一体的に整備する都市公園。公園の北側は中核機能と宿泊機能などを配置し、先行開発区域と連携する新産業創出と産学官民の交流ゾーン、南側は国際集客・交流に資する業務・商業・宿泊施設などを配置し、世界からのビジネスや観光を促す「高度複合都市機能集積ゾーン」を予定。都心にある「みどり」の空間を通じて、来街者が参加体験し、楽しみながら商品開発や評価に参画できる場を実現する。同地区のイメージを知ってもらうため、UR都市機構は昨年度から地区内の地上通路の一角にカフェを併設した情報発信拠点「UMEKITA BASE by UR」をオープン。普段は入れない工事エリアを回るガイドツアーを月1回開催するなどしている。



カフェを併設した情報発信拠点「UMEKITA BASE by UR」(UR都市機構提供)

うめきたプロジェクトと同時に、JR大阪駅周辺駅も大きく変化している。昨年11月には商業施設「リンクス梅田」や「ホテル阪

急レスパイア大阪」を備えた「ヨドバシ梅田タワー」がオープン。リンクス梅田はヨドバシカメラマルチメディア梅田と連携し、地下1階から8階までの9フロアに渡って、日本初や関西初の店舗を多数含む注目のテナント約200店舗を出店。1階北側には、東京や横浜、仙台など主要都市への直行便が発着するバスターミナルを整備している。同施設9～35階はホテル阪急レスパイア大阪(阪急阪神ホテルズ)で、メインターゲットにインバウンドを位置付ける。

大阪地下街は、昨年5月から改装工事を行っていた「ホワイトイウめだ・泉の広場エリア」を同12月にリニューアルオープン。長年、親しまれてきた噴水が撤去された場所には、

【うめきた2期区域の土地利用計画図】(事業者提案より)

- 民間宅地(北街区) 1.6ha**
中核機能と宿泊機能を配置し、先行開発区域と連携する新産業創出と産学官民の交流ゾーン
- 都市公園 4.5ha**
[北公園] 市寄附金整備区域を含む緑豊かな憩いのゾーン
[南公園] 広場を中心に多くの人が集い多彩な活動ある賑わいゾーン
[賑わい軸(東西軸)] 公園と連続する広場空間として南北を一体化
- 民間宅地(南街区) 3.0ha**
国際集客・交流に資する業務・商業・宿泊・MICE施設を配置し、世界からのビジネス・観光を促す高度複合都市機能集積ゾーン



新たなシンボルとして水と木が合わさったモニュメント「Water Tree」を設置。LEDの光で水を表現する。泉の広場を含む3つのゾーンでは、大阪ならではの多彩な「食」の賑わいをコンセプトにした飲食店がテーマごとに立ち並び、利用シーンに合わせて楽しめる。同12月には日本郵便が、大阪駅西地区の旧大阪郵便局敷地においてオフィスや商業施設、1,200席の劇場、ホテル機能を導入した大型複合開発を発表。2024年3月の竣工を予定しているという。建て替えが進む阪神百貨店梅田本店は、低層階の阪神百貨店2期部分が2021年秋に開業、全面開業は2022年春を予定。2023年には新たに(仮称)北梅田駅も設置される。

みんなが参加できる聖火リレーに各地でセレモニー開催 「56年目のファーストランの会」も参加決定

東京2020オリンピック聖火リレーのルートが決まり、各自治体ではセレモニーやセレブレーションなどの計画が進んでいる。リレー出発地点では出発式が、各市では聖火を次のランナーにつなぐトーチキスなどのタイミングでセレモニーが、一日の最終地点では聖火を迎えるセレブレーションが行われ、選ばれたランナーだけでなく誰もが気軽に楽しめる内容となりそうだ。

兵庫県は5/24(日)～25(月)の2日間。摂津・播磨・但馬・丹波・淡路という歴史も風土も異なる個性豊かな五国を意識した、バラエティに富んだルートとなっている。

目玉は、朝来市の竹田城跡でのリレー。天空の城の上を4名のランナーが走る予定となっている。また宍粟市の音水湖(おんずいこ)カヌー競技場では2人乗りカヌーで聖火をつなぎ、南あわじ市は近年ビーチバレー大会の会場としても注目の慶

野松原を走る。音水湖と慶野松原では、それぞれ最後にセレモニーを実施する。

姫路市の世界遺産、姫路城の三の丸広場や丹波篠山市の篠山城跡三の丸広場では、聖火到着を祝うセレブレーションが行われる。

神戸市は2日目のスタート地点となっていて、出発式は兵庫県庁前で行われる。当日は「56年目のファーストランの会」10名の参加が計画されている。同会会員は1964年東京オリンピック開催の際、聖火ランナーに選ばれながら不運にも台風のためリレーが中止となり、走るができなかったメンバーだ。幹事長の森さんは「昨年6月24日に井戸知事が定例記者会見で、ファーストランの会から1人は走らせてあげよう」と発言



「56年目のファーストランの会」幹事長の森純也さん

してくださいました。翌日の新聞でそれを知った私たちはびっくりしました。その後、10名のグループで参加できるという連絡を受け、当時在籍していた学校が偏らないように慎重にメンバーを選びました。前回とは違い、イベント要素が強いリレーになりそうですが、距離は短くとも全員がトーチを持てるそうなので楽しみにしています。今一番気をつけていることは、選んでいただいた全員が病気やケガなく当日を迎えることです」と喜びを語った。

SNSに「#みんなの聖火リレー」をつけて当日の様子を投稿すれば、聖火リレーサイトまたはSNS上で公開されることも。また各プレゼンティングパートナーがフォトコンテストを開催。各社のテーマにあわせた素敵な投稿にはオリジナルグッズがプレゼントされる。ランナーがどこを通るのかは、聖火リレーサイトで確認できるので、近所などでいい場所があれば沿道で声援を送ろう。



竹田城(上)・音水湖(下)

聖火リレールート詳細 (市町村・出発予定地→到着予定地)

- 【5月24日】**
[豊岡市] 六方防災ステーション立野拠点→市役所前市民広場
[朝来市] 北千量→南千量
[朝来市] 朝来市立竹田小学校グラウンド→竹田駅
[宍粟市] 音水湖カヌー競技場第2会場→ダム管理事務所前
[加東市] 兵庫県北播磨県民局社総合庁舎前→加東市役所前
[小野市] 小野市役所駐車場出口→小野希望の丘陵上競技場内
[加古川市] 兵庫県加古川総合庁舎前→鶴林寺
[姫路市] 大手前公園→姫路城三の丸広場
[セレブレーション会場] 姫路市・姫路城三の丸広場
- 【5月25日】**
[神戸市] 兵庫県庁芝生広場→BEKOBEMOニュメント前
[明石市] 明石市立天文科学館前→大蔵海岸公園こども広場北側ロータリー
[南あわじ市] 西淡中学校前→ビーチバレーコート・瓦舞台付近
[西宮市] 甲子園駅前広場→浜甲子園運動公園東駐車場
[尼崎市] 尼崎市記念公園陸上競技場(西側スタンド前)→尼崎城址公園
[三田市] 郷の音ホール駐車場西口→西対中東交差点
[丹波篠山市] 篠山中学校→篠山城跡三の丸広場
[セレブレーション会場] 丹波篠山市・篠山城跡三の丸広場